

ケガをした／しそうだった児全員の名前、月齢、クラス	発生日時(だいたい)	記入日
	発生場所(おおざっぱに)	記入者
その場所(部屋、園庭、公園等)にいた職員全員の名前 (できごとに関わってなくても)		
その場所(部屋、園庭、公園)の環境が通常と違っていた場合、何が違っていたか 例:床/地面が濡れていた。他園の園児が約〇〇人いた		

これはマニュアルです。
事例はワードに記入してください

- まず、下の太枠の中(ケガをした／しそうだった瞬間。または危険に気づいた瞬間)を書きます。そこからひとつずつさかのぼって、起きたこと、した事実を時間に沿って短文で書いてください。時間や場所が変わったら、別のマスに書いてください。
- さらに、太枠の下にも、ひとつずつ前向きに、したこと、起きた事実を時間に沿って、短文で書きます。時間や場所が変わったら、別のマスに書きます。欄が足りない場合、表の左にカーソルを合わせると出てくる、「〇に+」マークをクリックすると、1行増えます。
- 「介入／改善の可能性」欄には、後で検討するべき箇所、介入や改善ができる箇所を指摘しておきます。介入も改善もできない箇所は、空欄のままに。

時/分	起きたこと、したこと(時間に沿って、ひとマスに短い文のみ) 「誰/何が」「誰/何に」「何をした」を書く	(左は)見た? 推測? 子どもが言った?	動画有? 動画確認済?	左の記述に対し、「違う」等と思う人が書く (その場にいた職員のみ)。または補足	介入/改善の可能性
時 分	ケガをした／しそうだった／危険に気づいた瞬間				

これはマニュアルです。
事例はワードに記入してください

4)「介入／改善の可能性ある」と考えた箇所について、皆(クラス、または全園)で考えます。起きたことの反省会ではありません。具体的にできることだけを出していきます。

「私が～していればよかった。ごめんなさい」を言ってはいけません。過去の反省をするためではなく、似た状況が今後、起きた時にどのようにすればよいかを考えるためです。

★まず、その場にあったモノ(玩具、家具、食具など)や環境(ドア、カーテン、すき間など)に問題がなかったか、はっきりさせましょう。モノや環境で修正できるなら、それがもっとも容易で効果的な方法です。

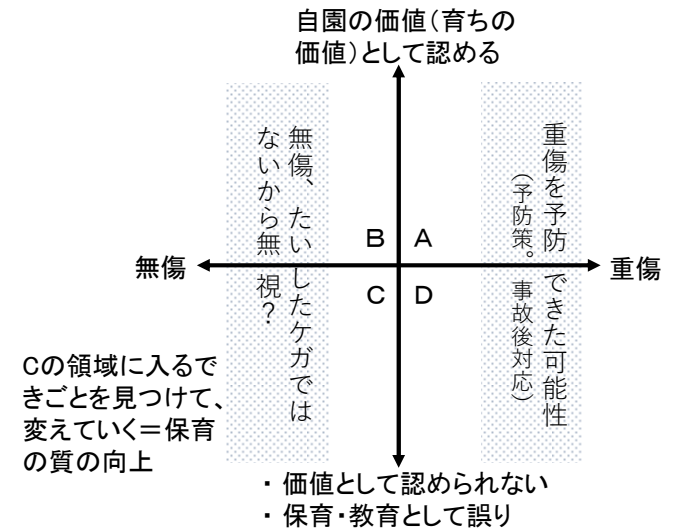
次いで、起きたできごとの流れは上の内容でわかるはずですので、必要であれば、「介入／改善の可能性ある」とした瞬間の職員や子どもの位置、していたことなどを図示します。必要がなければ、描く必要はありません。絵を描いて「改善したつもり」にならないでください。

そして、その瞬間の環境や周囲のモノの条件、子どもたちの動き方、保育者の動き方などで、「今後、役に立つかもしれない改善点」を考えましょう。特に、右図のC、Dを減らしていくための具体的な改善です。

この時、「注意しよう」「気をつけよう」「声をかけあおう」「連携しよう」「人数確認をしよう」「見守ろう」「子ども(の気持ち)に寄り添おう」「危険を予知しよう」「子どもに声をかけよう」「子どもがもっと遊びこめるようにしよう」といった、あいまいで、そのできごととは無関係な「改善策もどき」しか出てこないのであれば、その箇所はそもそも改善できる点ではない、とわかります。

5)たとえば、鬼ごっこをしていた4歳児が自分で足を滑らせ、転んだような場合、それが骨折という結果になったとしても、「介入点」や「改善点」はほぼないでしょう(上右図のA領域に入る)。一方、テーブルの前に座っていた1歳児が椅子から立ち上がって歩き出そうとし、椅子の足につまずいたような場合には、「保育として介入できること」があるかもしれません。でも、「保育者がなんとかしなければ」「保育者が予防できるはずだ」とばかり考えると、4)に挙げたようなあいまいな「改善策もどき」の言葉だけがすべての箇所に書き込まれ、結局、何ができることで、何が「改善策もどき」なのか、わからなくなります。そして、具体的な改善がなされないまま、類似の事故が再び起こります。

あいまいで、無関係な「改善策もどき」を並べて「予防できるつもり」にならない！ 本当に効果があること、保育の質を上げることだけを出す！



記入例 1

ケガをした／しそうだった児全員の名前、月齢、クラス I.A (2歳3か月、たんぼぼ)、T.S (3歳8か月、ひまわり)	発生日時(だいたい) 3月28日3時頃(午睡後)	記入日 3月28日
	発生場所(おおざっぱに) たんぼぼの前の廊下	記入者 Y.U
その場所(部屋、園庭、公園等)にいた職員全員の名前 Y.U.、調理の KN (できごとに関わってなくても)		
その場所(部屋、園庭、公園)の環境が通常と違っていた場合、何が違っていたか いつも通りで変わったところナシ 例:床/地面が濡れていた。他園の園児が約〇〇人いた		

時/分	起きたこと、したこと(時間に沿って、ひとマスに短い文のみ) 「誰/何が」「誰/何に」「何をした」を書く	(左は)見た? 推測? 子どもが言った?	動画有? 動画確認済?	左の記述に対し、「違う」等と思う人が書く (その場にいた職員のみ)。または補足	介入/改善の可能性
直前	IA は室内で遊んでいたが、急に遊びをやめて部屋を出ていった	たんぼぼの担任 KK が見た	有。まだ見 ていない	左の通りです (KK)	あったかも
3時直前 だと思 う	ケガをした／しそうだった／危険に気づいた瞬間 私 YU が廊下を歩いていたら、TS がトイレから出てきた。こっちに歩いてきた TS に、たんぼぼから走って出てきた IA がぶつかった。止められなかった	YU、KN が見た	写っている はず。まだ 見えていない	はい、私も見ました (KN)	できた ことがあ ったかも
3時頃	事務室で看護師に2人を診てもらおう。どちらも顔を痛がっているの で、病院へ行くことにする。見える傷はこの時点でない	←傷やあざは、すぐ出てくるわけではない！ そして、顔面の内側はすぐ脳			
3時5分	2人の保護者に電話をし、受診する旨を伝える。TSの保護者は「行かなくていい」と言ったが、「顔なので行きます」と伝えた				
3時35分	タクシーで2人を〇▽外科へ連れていく (YU)。受診中のメモは別紙			この間に主任が園で、廊下のカメラ画像を チェックしました。2人は顔がぶつか っていました	

4時45分	タクシーで帰園				
5時15分	TSの保護者が来る。起きたことと受診結果を伝える。「ビデオを見ますか?」と尋ねると「大丈夫です。話でわかりましたから」と笑顔。「顔のここをぶつけているので腫れてくるかもしれないと○▽先生が言っていました。万が一、吐いたりしたら救急車を呼んでください。私と園長にもご連絡ください」と伝えた		玄関なので、アリ		
6時5分	IAの保護者が来る。起きたことと受診結果を伝える。「ビデオを見ますか?」と尋ねると、「大丈夫です。うちの子が飛び出したんですから」(いつもと同じく淡々と)。「顔にあざが残ったりしますか」と訊かれたので、「顔ですから、ご心配ですよね。数日の間にあざが出てきたりするかもしれません。その時はまた○▽先生に訊いてくることにしましょうか? 今日の時点では、顔のここをぶつけているので腫れてくるかもしれないと○▽先生が言っていました。万が一、吐いたりしたら救急車を呼んでください。私と園長にもご連絡ください」と伝えた		クラスなので、アリ		

介入／改善ができたかもしれない箇所について検討

- ・IAが部屋から出ていこうとした時：担任KKは出ていこうとするところを見ていたが、もともとドアも自由に開けられるようになっており、部屋から出ていっても園舎からは出られないので、通常、止めることはしていなかった。このような事態を防ごうと思うのであれば、ドアを自由に開けられないようにするという決定が必要になる。どうする？
- ・トイレから出てきたTSは廊下を普通に歩いており、出てきたIAと偶然、鉢合わせしただけ。せめてできることがあるとすれば、廊下の左側（部屋のない側）を歩くように決める？ そうすれば、部屋を出てきた子どもとすぐにぶつかるということは防げるかも…。子どもがいつもそのルールを守れるわけではないだろうけど、おとなが道具とかを持って急に部屋から出てくることもあるから。逆に、おとなが廊下を歩いている時に子どもが部屋から飛び出てくることもある。歩く側をルールにしてみる？

記入例 2 (実際、東京都内で起き、自治体から注意喚起の書面が出た事例をもとにしたもの)

ケガをした／しそうだった児全員の名前、月齢、クラス K.S. (1歳8か月、あさがお)	発生日時(だいたい) 9月3日5時過ぎ	記入日 9月3日
	発生場所(おおざっぱに) たんぼぼ (合同の部屋)	記入者 OJ
その場所(部屋、園庭、公園等)にいた職員全員の名前 OJ, YY, RI (できごとに関わってなくても)		
その場所(部屋、園庭、公園)の環境が通常と違っていた場合、何が違っていたか いつも通り 例:床/地面が濡れていた。他園の園児が約〇〇人いた		

時/分	起きたこと、したこと(時間に沿って、ひとマスに短い文のみ) 「誰/何が」「誰/何に」「何をした」を書く	(左は)見た? 推測? 子どもが言った?	動画有? 動画確認済?	左の記述に対し、「違う」等と思う人が書く (その場にいた職員のみ)。または補足	介入/改善の可能性
直前	OJ, YY, RI 全員、お迎え部屋でお迎え対応をしていた		アリ		
5時5分	ケガをした／しそうだった／危険に気づいた瞬間 泣き声が聞こえたので振り向くと、KSがおままごとのキッチンの前に立ってすごく泣いていた(私はたんぼぼのドアの所で別の保護者と話していた)	OJ が見たが、起きた瞬間は見えていない	見たら KS は写っていたが、後ろ姿	私も見ました YY 私は廊下にちょっと出ていたので見ていません RI	できたことがあったかも
直後	看護師が来て、「指が深く切れているから、救急車を呼んで」と言われる。YYが119番に電話をしに行く		アリ		
5時10分				(園長) KSの保護者の携帯に電話。「あと5分ぐらい」とのこと	
5時26分	(以下、救急車が来て病院へ…、なので、略)				

介入／改善ができたかもしれない箇所について検討

・右は実際に自治体から各園に送られてきた文書。この玩具（扉）の構造の誤りがすべてです。ところが、下にある通り、自治体はモノそのものの問題にはいっさい言及せず、「見守れ」「年齢に合ったものを」云々と「あいまいで、無関係な対策もどき」を言っているだけです。



この部分に指を挟む

この扉が、本体の枠に入りこむ形態になっていて、指が吸いこまれるようにはさまることが、そもそもの問題。扉が枠を覆う形態になっていれば、それは起きない。
製造者の問題であり、園は販売者、製造者に改善を申し入れるべき。
「自分たちの責任」と泣き寝入りしていたら、製品はいつまでたっても安全にならない。（掛札）

元の文書をスキャンしたもので →
見づらいますが、赤字は掛札

【事故を防ぐために】

- ・玩具、遊具の正しい使用方法をしっかりと確認すること。本件に無関係
- ・玩具、遊具は年齢や発達による違いにあわせて、適切なものを提供すること。製品が危険
- ・特に合同保育の際は、各児童の年齢や発達に違いがあることを考慮し、提供する玩具、遊具や、児童の行動に細心の注意を払い保育すること。製品が危険
- ・玩具、遊具が破損等により危険な状態にないか、日常的に点検すること。製品が危険
- ・転倒の可能性がある玩具、遊具を使用する場合は必ず、保育従事者がそばで見守ること。転倒？ 本件に無関係
- ・保育従事者の立ち位置を決め死角を作らないようにし、持ち場を離れる場合は声を掛け合うなどして連携し保育すること。 職員の業務は、子どもを監視し続けることではない。監視せよと要求するなら、配置を増やせ。そして、保護者対応でよりいっそうの人手が必要な送迎時には加配を。なにより、子どもにとって危険な製品を作っている製造者を野放しにするな。